

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4272300254		
法人名	有限会社 ウエルサポート		
事業所名	グループホーム 第二わらび苑	ユニット名	I
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1622番地63		
自己評価作成日	2024年 10月 15日	評価結果 市町村受理日	2025年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報 リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topigyosyo_index=true
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フロー薬院2F		
訪問調査日	2025年 4月 18日	評価確定日	2025年 4月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設以来、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう行政機関や家計団体等、及び地域の人や家族等と一緒に考えて活動しています。その中から様々な事を学ばせて頂き、その成果を地域のために役立てることが出来るように取り組んでいます。今までコロナ感染症のために行事等ができなかったが、これからはコロナ以前の行事等も復活させて行きたいと考えています。また、元気な利用者が多く家事を当番制にして手伝ってもらっています。入居者と一緒に楽しく暮らしている明るいホームです。家族等の困りごとにも耳を傾けてホームが出来ることは支援を続けています。利用者や家族等がここを選んで良かったと思えるホーム作りに職員が丸となって取り組んでいます。

“グループホーム第二わらび苑”は大瀬戸町にある。運営者の方々も地元の方で、地域貢献を長く続けてこられた。理事長は20年に亘り、総務省の行政相談員を担われており、子ども達を含めて市民からの各種相談を受け、関連機関に繋げてこられた。理事長等は「できることを、できる人が行っていく」ことを貫かれており、たゆまぬ地域貢献と、ご利用者の方々の“自立支援（「できること」「できそうなこと」のプロの支援）”に繋がっている。“第二わらび苑”は2つのユニットがあり、代表取締役（社長）が主になり、2024年度に初めて人事異動が行われた。ユニット間の異動を行う事でユニット同士の協力体制もできており、理事長、各ユニットのホーム長を含め、それぞれの職員の「働き方」「働きやすさ」を大切にした個別対応が行われている。職員の方々からも運営者等への感謝の思いが聞かれ、お互いに支え合いながら、「できることを、できる人が行える」ように努めている。理事長、両ユニットのホーム長は「人」だけではなく、「花、木々、野菜等」を含めた全ての“生き物”に深い愛情を注がれており、敷地内の季節の花も綺麗で、たくさんの野菜が育っている。「多肉植物」も仲間入りし、日々慈しみの笑顔が溢れている。2024年度は理事長の発案で「介護現場における対人関係、介護職員と利用者間の相互作用」に関する場面を、「相手の言動等」「自分がその時感じたこと、考えたこと」「自分の言動・行動」「考察・評価、検討事項」「このことから学んだこと」をプロセスに落とし、振り返りを行うことができた。「身体拘束は虐待。例外はない」という理事長の考えのもと、日々ゆとりある楽しい生活となるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印		項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている（参考項 目：4）		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで 生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
		○	3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らしている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」の理念を大切にして、管理者と職員は、その意味を理解して実践している。	“わらび苑”を開設した時に作られた理念であり、“地域の人を”“地域の人が”“地域で”の思いを込めて、「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」という理念を大切にされている。日々の生活の中で入居者の方々がタオルたたみ、新聞折り、布巾縫い、食器洗い、食器拭き等を“いっしょに”してくださり、大好きな歌を唄い、風船バレー等も楽しまれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症防止の観点から交流は控えていたが今後は以前のような交流を行っていく事になっている。	代表者が地元の方であり、地域貢献を長く続けてこられた。ホームで収穫した野菜を近所の方におすそ分けしたり、近隣のお宅にある花壇の草取りをする時もあり、散髪ボランティアの方が2カ月に1回訪問してくださる。琴平神社の春季大祭である「とんぼんさん」に出かけることもでき、お寺の行事である“花まつり”も参加予定である。コロナ以前は敬老祝賀会でピアノ教室の子ども達と一緒に楽しまれたり、お寺の学童クラブの子ども達と七夕作りを一緒にされたり、保育園児の踊りの披露もあり、笑顔溢れるひと時になっていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの実践から学んだことを地域の人々に向け活ことをひかえていたが、今後活かしていく事になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に事業所の“いま”が、わかるような取り組みを行い、面会時などを活用して意見や要望が伺えるようにしている。	2024年5月から対面開催しており、家族の方々、地域包括の職員が参加してくださる。日々の取組み等を小冊子に集約した報告書（表紙・目次・運営状況等）を作成しており、ホームの現状が理解できるように努めている。小冊子の表紙には理事長が日々撮影した素敵な写真を載せており、参加者の方々に好評である。地域の方とは日頃から密に情報交換しており、今後の運営推進会議での意見交換の方法等は慎重に検討していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出時等の折、事業所の実情を報告するなど積極的な協力関係が構築できよう取り組んでいる。	理事長は20年に亘り、総務省の行政相談員を担われており、子ども達を含めて市民からの各種相談を受け、色々な機関に繋いでいる。認知症の方々と家族への支援を含め、西海市と一緒に前向きな検討を続けている。ホーム長も必要時に西海市に相談した際は、市の担当者が親身に対応してくださり、入退居情報等も報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「如何なる場合も身体拘束しないケア」を実践している。玄関だけは防犯の観点から夜間のみ施錠している。	「身体拘束は虐待。例外はない」という理事長の考えを職員全員が理解して実践している。理事長が認知症介護指導者であり、虐待防止関連法を学ぶ機会もあり、ミーティング等で常日頃から話し合っている。理事長からの研修もあり、「バリデーション」「フレティーの遺言（わらび苑アレンジ版）」等を職員と共有し、身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会は、運営推進会議で行っている。ご本人の気持ちに寄り添い、原因分析を行い、最適な関わり方を家族も一緒に考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法については代表者から学ぶ機会があり、事業所内外で虐待が見過ごされる事がないよう、常に虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している入居者があり、以前は成年後見人が選任された入居者がいた。個々の必要性によって、いつでも活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約等、家族等の不安や疑問を聴きながら懇切・丁寧に説明し、納得されてから契約を締結している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族等の意見・要望等が聞けるような関係づくりを心掛け、その中で運営に活かされるものについては、運営に反映できるようにしている。	入居者と家族が「いつでも遠慮なく思いを伝えて頂ける」ような関係作りに努めている。コロナ以降も家族の方々と玄関先で面会を行い、電話等で日々の暮らしぶりを報告し、要望を伺っている。コロナ以前は家族参加の行事があり、家族の方が歌を披露してくださり、体育館でのミニミニ運動会も好評であった。	今後も家族の方々に、写真等を活用して日々の暮らしぶりを伝えるとともに、受診結果等の共有の仕方を検討していく予定である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員が自分の意見や提案が言いやすい職場環境に心掛け、出された意見等で運営に反映できるものについては反映するようにしている。	代表者と職員の結束は強く、長く勤務している職員も多い。理事長、社長、各ホーム長にも相談しやすく、職員の休み希望や早出の希望等を叶えている。2024年は初めての人事異動があり、職員が2つのユニット全体に意識を広がる機会になった。毎年好評の職員へのクリスマスケーキのプレゼントも続けており、職員も運営者等に感謝の気持ちで過ごされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状態を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際や力量を見極め、職場内外の研修を受けたり、働きながらトレーニング出来るような職場環境の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	未だにコロナ関連で同業者との研修会等の実施が躊躇されているが、徐々に同業者等との交流を図り、更なるサービスの質の向上に取り組んでいく。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安な事を良く聴いて、本人が安心して生活できるような言葉使いや接遇態度に注意しながら安心が確保できる関係づくりに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、家族が困っている事、不安な事、要望等を良く聴いて信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の相談を受けた段階で、本人に必要なサービスを見極めて、その支援も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし、支え合う関係を大切にして、利用者一人ひとりに寄り添いながら、楽しく暮らし続けられる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしなが、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にしなが、家族と共に本人を支えていける関係づくりを築けるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時も玄関先での対応であったが、馴染みの人や場所等を話題にコミュニケーションを図ることで馴染みの関係を大切にしてもらう支援に努めている。	生活歴（出生～今日まで）、趣味、特技、職業歴、家族や友人との関係、食べ物の好き嫌い、馴染みの人や馴染みの場所等を把握し、「毎日の習慣となっていること」等に記載している。玄関先での家族との面会も継続しており、自宅に帰られた方、お祝いで家族と外食された方、家族の葬儀に参列できた方もおられる。職員と同郷の方もおられ、話が弾まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に支え合い、孤立しないで楽しい生活が出来るように職員が仲介しながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしなが、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてもサービス利用時と変わらない関係を保ち、必要に応じて相談に応じたりして支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者の言動や表情から本人の希望等を読み取れるよう努めている。困難な場合は利用者本位のサービス提供に努めている。	日々の生活の中で、「家に帰りたい」「アジの刺身を食べてビールを飲みたい」「たまには“ぼやきたい”」「気分転換したい」等を伺い、喜怒哀楽を含めた寄り添いを行っている。センター方式の暮らしの情報シート（B-3、D-1、D-2）を職員に記入してもらい、日々の記録とコミュニケーション記録簿なども活用している。プロセスレコードを全職員に提出してもらい、日々の言動、声掛け、職員個々の心理、ケアの背景等の振り返りが行われている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族等から生活歴や暮らし方、生活環境等の情報を聞き取り、常に本人が安心して暮らし続けられるよう必要なサービス提供内容の経過の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や表情及び毎朝のバイタルチェック時に、心身状態や有する能力の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリング、アセスメントを行い、本人や家族等の意見を聞いて、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人と家族の思いや要望を伺い、記録に残している。センター方式（暮らしの情報シート等）やFAST等も活用し、「できること」「わかること」「できそうなこと」等を把握している。利用者ADL等調査票も職員個々が記入し、職員間で検討しており、介護計画（1～3表）と介護手順書（職員作成）を作成し、体操やリハビリ、食器拭き、タオルたたみ、新聞折り、散歩等も盛り込まれている。日課計画表には「できること・介助が必要なこと」「留意点」を記載し、日々のケアに活かしている。	今後も引き続き、ご利用者の方々とのお話の中で観察（アセスメントと分析）を増やしていくとともに、家族と一緒に介護計画の話し合いをしていく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践した内容等は、気づきを含めて業務日誌、夜勤日誌、個人日誌及びコミュニケーション記録簿等に記入して職員間で共有している。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族等の現状を把握し、本人や家族等がその時々に必要なとするサービスを提供するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人を支えるため、散髪ボランティアの方が2ヶ月に1度訪問される。コロナが落ち着いた現在、以前のような地域資源の活用で楽しい暮らしを支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「かかりつけ医」とは、何事でも相談できる関係を築いており、適切な医療が受けられるよう支援している。	希望する「かかりつけ医」に受診できる。かかりつけ医が遠方の場合はホームの協力医療機関に変更する方もおられる。西海市内は職員が受診介助し、西海市以外は家族が受診支援しているが、難しい場合は職員が対応し、家族と情報共有している。主治医の方々も、ご本人の今後の生活を理解した療養環境を検討してくださり、定期往診はないが、必要時の往診を受けられる体制は整えている。今後も家族の方々と受診結果の共有をしていく予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診時に「かかりつけ医」の看護職と情報交換することで本人の状態を伝えたりして、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時は、退院時のリロケーションダメージを考慮して、病院関係者と情報交換できる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化や終末期にあると考えられる場合は、主治医や家族等と事業所が「出来る事」「出来ない事」を話し合いながら支援している。	24時間の医療連携が困難であり、ホームで「出来る事」「出来ない事」を説明するとともに、ご本人の死生観、家族の意向も念頭におきながら、主治医の協力が得られるような体制を整えている。「食事が摂れない」等、体調変化に応じて家族等と話し合い、必要に応じて主治医の訪問も受けられる。家族と全ての職員で、日々誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備え、全ての職員が初期対応できる体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害発生時には、利用者の避難誘導を第一に日頃から訓練し、全職員がその方法を身に付けている。火災予防については、日頃から火器、防火機器の点検をしている。	2022年3月にBCP（事業継続計画）を作成し、秋（11月）と春（3月）の全国火災予防週間に訓練している。避難訓練（夜間想定）では、緊急時の連絡方法、防災機器の取り扱いを確認しており、消防署も年1回訪問し、情報交換している。ホームは地盤も固く、高台にあり、各ホームから外に出られる避難経路が複数確保されている。地域の避難場所でもあり、災害に備えてカセットコンロ、水（タンクあり）、米、缶詰、野菜、土嚢袋等を用意している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けを行って対応している。	ご本人と目線を合わせ、優しく寄り添い、言葉遣いに配慮している。年長者としての敬意を持って接し、入居者の意思決定を大切にされている。羞恥心の配慮でトイレ誘導時の声かけに留意し、食事介助の際の声かけも、ご本人のペースで、ゆっくり食べられるように丁寧に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、本人の思いや希望が話せるよう、ゆっくり話したりして、その思いが聞けるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でなく、一人ひとりの生活ペースを大切にして、希望に添った暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれに気を使い、また、服装などに乱れがあった場合は、さりげなく直したりしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、野菜を切ったりの下準備を一緒にして、食材を話題にしながら楽しい食事が出来るよう支援している。ホームで作った野菜などが食卓を賑わせている。	ホームで栽培している野菜（人参、大根、小松菜、玉ねぎ等）を収穫し、季節の料理を楽しまれている。3食手作りで、とても美味しく、彩りも綺麗である。自分で食べられる方が多く、体調に応じて介助しており、汁物に「とろみ」をつけたり、刻みにする方もおられる。大村寿司やお刺身も好評で、理事長と入居者が一緒に魚をさばいている。入居者の方々も下さりえ（包丁でじゃがいもを切る、牛蒡そぎ、玉ねぎの皮むき、芋づるやツワの皮むき等）、下膳、食器洗い（ゆすぐ）、食器拭き、テーブル拭き等をしてください。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や栄養バランス及び水分補給量は、毎食記録し、一人ひとりの状態を把握している。3ヶ月毎にカロリー計算も行っており支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを実施して、清潔な口腔状態を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や習慣に応じた排泄状態を把握しており、その状況に応じてトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄が自立し、布の下着を着用する方もおられる。排泄チェック表を確認し、個別のトイレ誘導を行う事で失禁が減った方もおられる。排泄状況に応じてパッドの大きさを検討し、羞恥心に配慮して排泄の誘導等は小さな声にしている。車いすの関係でトイレのドアを完全に閉められない時もあるが、職員が気がけてドアを閉めるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫や水分補給、また毎日の体操、歩行訓練などを活用して自然排便が促されるよう取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には日程を定めているが、入居者の都合でいつでも入浴できるようにしている。また、入浴を楽しんでもらえるよう菖蒲湯、ゆず湯も毎年行っている。	入浴の希望（湯温等）を伺っている。入浴好きな方が多く、家族の話や昔の五右衛門風呂の話など、職員との会話を楽しんでいる。職員の自宅の庭の柚子や菖蒲を持参し、湯船に浮かべており、シャワー浴の方も保温に努め、できる所はご自分で洗われている。「今日は入りたくない」と言われる方は無理強いせず、次の日に入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に応じて、それぞれが安心して、気持ち良く睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者一人ひとりが服用している薬の目的、副作用、用法や用量を把握しており、服用時には誤薬がないよう名前を確認し、手渡しすることで症状の変化等の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれに合った手伝い等をお願いして、役割や楽しみ事ができるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだ、コロナ禍以前のような外出が出来ていないが、徐々に外出の機会を増やして支援するようにしている。	ホーム周辺は車の通りもなく、道いっぱいに広がって仲良く散歩をされている。敷地内の花や野菜を眺めることができ、野菜の収穫も楽しんでいる。受診の時にドライブや季節の花見ができており、家族と一緒に自宅に外出したり、お祝いで外食に行かれた方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと安心できない方もおられるので、入居時に家族等と話し合いのうえ所持したり、使ったり出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人が希望する時は自由に使えるようにしている。手紙のやり取りについては、希望すればいつでも対応できるように支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花々を飾ったり、一人ひとりの好みに合うような空間を大切に、居心地よく過ごせるように工夫している。	ホーム内に花壇や畑があり、管理者と両ユニットのホーム長が愛情いっぱいに季節の花や野菜を育てている。入居者の方々が草取りをされたり、庭の花を摘んでリビングに飾られており、観葉植物も置かれている。玄関からリビングに続く廊下は清掃が行き届き、朝と昼に歩行訓練される方もおられる。リビングと台所も明るく、広いスペースで、入居者の方々も洗濯物たたみや布巾縫い、カーテンの開け閉め、カレンダーをめくる等の役割があり、入居者同士の声かけや助け合いも行われている。食事の準備の音や掃除機の音など、家庭と変わらない配慮を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも独りになりたい時は、独りになれ、気の合った人と一緒に語り合える場所など、その人に応じた居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、居室の空気の入替えを行い、使い慣れた物の持ち込み、写真やカレンダー等を貼って、本人が違和感なく過ごせる空間づくりに配慮している。	家族の写真、愛用の時計、ブラシ等を持ち込まれており、居室で読経される方もおられる。理事長手作りのカレンダーを毎月貼っており、入居者と職員はとても楽しみにされている。起床後にベッドの布団を畳まれる方もおられ、ご自分でできない方は職員が手伝っている。温湿度計があり、換気も行い、ベッドメイキングを含めて綺麗に掃除をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホールには、入居者の歩行等に危険を及ぼす物品は置かず、入居者それぞれが安全で自立した生活が出来るような工夫をしている。		